

言葉遣いに関する 女性向け実用書における女性像 —ビジネス場面に着目して—

増田 祥子

1. 言葉遣いに関する実用書と規範

本研究では、言葉遣いや会話でのふるまいについて書かれた女性向け実用書を対象とし、ビジネス場面における言葉遣いの規範と女性のイメージを明らかにする。言葉遣いに関する実用書とは、「このような時はこのように言うべきである・言うべきでない」といったことが書かれた書物である。これらの実用書は、毎年数多く出版され、書籍売り上げで上位となることもあり、出版市場が存在する影響力のある媒体といえる。

日本語には女性が話す「女ことば」が存在するとされてきた。近年では、「女ことば」は単に女性が使用する言葉というよりも、女性はこのように話すべきであるという規範性を持つものであると指摘されている（鈴木2007、中村2007ほか）。女性はこのように話すべきであるという「女ことば」規範は、学校や家庭、メディアなど様々なところで提示され続けている。たとえば、小説やアニメ、漫画では女性が女性らしい言葉を用いて話しているのを見聞きし、家庭や学校では「女の子はこのように話しなさい」と言われる。これらを通じて「女ことば」規範が形成されていく。本研究では、このような「女ことば」規範形成の経路のひとつとして、言葉遣いの実用書を位置づける。

言葉遣いの実用書を規範形成の一端として位置づけ、分析した研究には、岡本（2010）、佐竹（2010）がある。これらの研究では、女性の言葉に対して向けられた「このようにあるべきである」という見方をイデオロギーであると述べる。本研究もこの考え方にに基づき、実用書の分析を行いたい。具体的には、日本語社会における言葉遣いの規範と女性の結びつき、中でもビジネス場面における女性のイメージや理想像を明らかにする。ビジネス場面に着目するのは、これまでビジネス場面のみに焦点を置いた研究がなかったこと

に加え、女性の働く状況が変わる中で、提示される規範がどのように変化しているかを明らかにするためである。

本研究では、女性が実用書の指南する通りの話し方を身につけた際のメリットが、どのように提示されているかについて分析する。実用書では、「言葉遣いが××な女性は○○である」「○○な女性になりたければ××と言うべきである」と、規範に従うことでどのようなメリットがあるのか、また従わなければどのようなデメリットがあるのかが示されている。このようなメリットやデメリットの提示とともに女性のあるべき姿や望ましいとされる姿も語られる。たとえば、「敬語が使える女性は美しい女性です」という文には、美しい女性が望ましいものであるという前提のもと、美しい女性となるための方法として敬語を身につけることが示されている。このように、ビジネス場面において望ましいとされる女性の姿はどのようなもので、それらは時代によって変化するのかという点を本研究では明らかにしたい。

2. 調査資料

本論文では、1970年から2011年に出版された言葉の使い方や話し方を扱った実用書32冊を調査資料とした。資料は、国立国会図書館のNDL-OPACで検索したものから⁽¹⁾、1人の著者につき1冊を選んだ。同一著者によって複数の本が出版されている場合は、原則として最も古い年代に出版された書籍を選んだ。本研究では、出版年代と実用書の内容を関連づけて考察を行うため、このような方法をとった。

これらの資料から、さらに対象読者の性別が女性と考えられるものに絞った。書名や前書きに「女性」「OL」などの語句、「会話のおしゃれ」など女性を連想させる語句が含まれ、女性が話し手として設定されている資料を対象とした。また、実用書にはビジネス場면을扱わないものもあるが、今回はビジネス場면을扱っている実用書を資料とした⁽²⁾。これらの資料32冊の各年代の内訳は、1970年代5冊、1980年代7冊、1990年代6冊、2000年以降⁽³⁾14冊となった⁽⁴⁾。

3. 話す力の習得メリットと女性イメージ

上述の32冊において、「○○な女性になりたいければ××と言うべきである」「××を身につければ、女性は○○になれる」といった表現を抜き出し、分析した。これらの表現は「××」という話す力を身につけると女性にどのようなメリットがあるかを示している。これらを「女性の話す力の習得メリット」と称し、メリットの内容とともに提示される女性のイメージを論じていく。話す力の習得メリットには次の3つが見られた。また、これら3つのメリットは、提示される年代が異なることも明らかになった。

- 1) 女性は話す力を身につけることで男性から結婚相手に選ばれる
- 2) 女性は身につけた話す力を家庭でも活かすことができる
- 3) 女性は話す力を身につけることで仕事ができるようになる

3.1 男性に選ばれる女性

「1) 女性は話す力を身につけることで男性に結婚相手に選ばれる」というメリットとは次のようなものである（以下、用例の下線は筆者による）。

- (1) 《筆者補足：若さだけに甘えていては》社会人として、職場の人として一人前になれないだけではなく、女性としても一人前になれません。
(中略) その反対に社会人として努力するあなたは、職場で愛され、たよりにされることはもちろん、職場の生活を通して、女性としてもみがかれて、素敵な男性に愛され、プロポーズ、ゴールインと、しあわせな人生を進むこととなります。

では、社会人として一人前のあなたとはどんなあなたでしょうか？
1 明るく毎日のあいさつをするあなた。（主婦の友社編1972『愛される話し方・聞き方』）

(1)では、女性が社会人として一人前になるために努力することで、職場で愛され、さらには素敵な男性にプロポーズされ、ゴールインでき、幸せな人

生を歩むことになる」と述べられている。そして、社会人として一人前になるためには言葉遣いを身につけるべきことが書かれている。ここでは、職場で愛され、男性からも愛され、結婚相手として選ばれる女性の姿を望ましいものとして提示している。

1981年の実用書である(2)でも、男性が結婚相手として選ぶ女性として、心の美人が挙げられている。しかも、この心の美しさは言葉によって表現されることも書かれている。

- (2) 本物を見分ける目をもった教養ある男性は、最終的には心の美人を結婚の相手に選ぶのです。(中略) 明るさも積極性も、生き生きとした生き方も、その姿態とともに、ことばになって表現されることが圧倒的に多いのです。そうなると、人間の魅力がことばづかいや話力に集約されてでてくるということになります。男性はわがままなのでしょうか、美しい女性には美しいことば、あたたかな言葉を期待します。(永崎一則1981『魅力的女性は話し上手』)

これらの記述では、言葉遣いを身につけることで男性に結婚相手として選ばれることがメリットとして提示されている。

(3) でもまた、若い女性が職場で好感をもたれ、みんなから可愛がられることの素晴らしさを説き、そのために言葉遣いが重要な意味を持つことが述べられている。

- (3) こんなU子さんですから、上司に認められ部長からお見合いの話がかかってきます。これは何も受付係だけのことではありません。あなたの職場を訪ねてこられた来客に対しても、仕事の忙しさにまぎれて、ぞんざいなことばを使ったり、間違ったことばを使ったりしては、会社のマイナスになるばかりでなく、あなた自身の評価にも影響してきます。

お勤めの若い女性の方々は、一日の大半を職場で過ごすことになりま
す。そして人と接する場面の一番多いのは、その職場にいるときです。
その職場で好感をもたれ、みんなから可愛がられることは、二度とな
い若い時代にとっても素晴らしいことではありませんか。 対応について
今までのべたことを整理しますと、①ほほえみのある明るい顔 ②こ
とば使いは正しく丁寧に ③歓迎とねぎらいのことばを使うこと ④
相手の立場になって親切に の四つです。十分に気を付けて話しまし
ょう。(安久一郎1970『愛される話し方 若い女性のために』)

(3)では、若い女性が職場で可愛がられることの素晴らしさを説くと同時に、
すばらしい対応をした女性に見合いの話がもたらされることが書かれている。
言葉遣いを身につけると、職場で可愛がられるだけでなく、男性から結婚相
手としてふさわしい女性とみなされ、結婚話ももたらされることが示されて
いるのである。

話す力の習得メリットの提示では、(1)(2)のように直接的に結婚相手とし
て見なされることを示す場合もあれば、(3)のように言葉遣いが適切な女性に
は結婚がもたらされるというエピソードが示される場合もある。

話す力の習得のメリットとして男性から選ばれることを挙げる例には、「言
葉遣いによって恋人に捨てられた」(主婦の友社編1972『愛される話し方・聞
き方』)というものもある。

1992年の(4)でもまた、男性が好感を持つ女性の条件として、言葉遣いの美
しい女性が挙げられている。

(4)さらに言葉遣いでいえば、会社で仕事をする以上、覚えておかなけれ
ばいけない言葉遣いもあります。(中略) こうした言葉遣いについては、
不安に思っている人も多いことでしょうが、いい言葉遣いを身につけ
れば、自分の得にもなります。男性が、好感をもてる女性の条件とし
て上位にあげるものの一つが、「言葉遣いの美しい女性」なのです。(全
日空営業本部教育訓練部1992『OLタプー集 「気がきく」「感じがいい」
といわれるために』)

1990年代の資料では、他にも「言葉遣いが美しいことで男性から好意を持たれ、結婚することができた」女性の話を示す実用書（田丸美寿々1994『言葉のおしゃれ 365日』）もある。

このような話す力を身につけると男性から好意を向けられるという記述は、1970年代から1990年代の複数の資料に見られた。このことは、この年代の読者である女性にとって、男性から選ばれるというメリットが価値のあるものとみなされていたことを意味しているのではないだろうか。

3.2 職業の経験を家庭で活かす

次に、女性の話す力の習得メリットとして、「2）女性は身につけた話す力を家庭でも活かすことができる」について述べる。このメリットでは、女性が結婚し、家庭に入ることが前提として示される。

「2）女性は身につけた話す力を家庭でも活かすことができる」とは、(5)のような例である。(5)では、「医者に子どもの病状を伝える」「夫に人の依頼を伝える」といった場面で、職場で身につけた能力が活かせると述べられている。しかし、現実では多くの女性はその能力を失ってしまうことも書かれている。

(5) 家庭に入っても、生活に密着したビジネスはたくさんあります。たとえば、子どもが病気になったとき、その様子をお医者にわかりよく伝える、留守中にたずねてきた人の依頼を夫に伝える、会合の打ち合わせをするなど、伝言や伝達の機会が多いのですが、結婚前にせつかく職場で身につけたビジネスセンスを、いったん家庭に入るとたちまち失ってしまう女性が多いのは、全く残念なことです。これは、職場にいるときに、習慣的にただなんとなくやっていただけで、ポイントを押さえ、しっかりと覚えておかなかったためです。（主婦の友社編1972『愛される話し方・聞き方』）

(6)でも、「報告」という言語行為が家庭生活でも存在し、それには話す力が必要であるという。

(6) ある主婦の例ですが、夕方帰宅した夫から、「きょうは何かあったか」と聞かれ、「あったのよ」と答えたきり、ポイントには入りません。夫から「何があったか」といわれても、「あててごらん」などと、クイズのようなことを言って、イライラさせた、という人がいます。漫才ではあるまいし、このような報告の仕方では、主婦業もうまくつとまりません。(永崎一則1981『魅力的な女性は話し上手』)

これらの例は、職場での話し方の中に差し込まれているもので、1970年代、1980年代の実用書に見られた。この年代の実用書では、職場での話し方について書かれているにもかかわらず、仕事における成功や出世が話す力を身につけることの目的とはされない。あくまで職場で身につけた話す力や経験がその後の女性の人生に役に立つという視点で述べられているのである。そして、ここでいう人生とは、家庭生活や育児、近所・親戚づきあいのことである。

これらの記述では、女性にとって職場で働くという状況が今後の人生で長く続くものととらえられておらず、働く女性が結婚し、家庭に入ることが当然視されている。女性の生活の基本が家庭にあるという考え方は、次の(7)でも見られる。

(7) まず一番の基本となる、家庭でのあなたの姿、家族との人間関係を良いものにしておけば、職場などで対応するのも楽になります。家庭から職場にいったとたん、急にころっと態度をかえたりすると、その緊張感からだけでも疲労は大変なものです。もちろん適度の緊張は必要ですが、安定した、穏やかなあなたの人柄が、家族の中でつくられるのが一番望ましいのです。(原加賀子1979『素敵な女への50章 話し方ひとつであなたは変わる』)

(7)では、家庭の中での人柄の安定や人間関係の育成が、職場での生活をよいものにすることが述べられている。ここには、女性にとって家庭生活が基本と見なされ、女性の生活の中心が家庭であるという認識が存在している

と考えられる。1981年の事例である(8)でも、現時点では女子社員である人物が、将来的に結婚し、家庭に入るという前提で論じられている。

(8) 世の中は激しく移り変わっていきますが、ものの考え方、仕事への取り組み方の基本、複雑な人間関係を調整していくいき方など、変わらないものもあるのです。その変わらないものを、せつかく職業につくのですから、女子社員として働く中から自分のものにして欲しいのです。企業の中で得た厳しさは、将来家庭に入っても、一家の経済の切り回し、近所づきあいや育児にと、十分発揮されるのです。(近田登志子編著1981『今日からあなたも女子社員』)

(8)では、女性が職場で身につけた話す力や仕事の経験は、家庭に入ってから活かすことができると書かれている。このような家庭の話が話題にされるのは1980年代までで、1990年代以降の実用書ではビジネス場面における話す力の習得メリットにおいて、家庭で活かせるという言及は見られなかった。

3.3 仕事ができる女性のイメージ

次に、「3」「女性は話す力を身につけることで仕事ができるようになる」について見ていく。2000年以降の実用書では、女性のイメージに変化が見られるようになる。それは、「仕事ができる女性」というイメージが出てきたことである。「仕事ができる女性」というイメージとは、次の(9)のような例である。この例では、女性が話し方を身につけることが、仕事ができることや成功と関連づけられている。

(9) もし、あなたが「仕事ができ、愛される話し方」を身につければ、受け身ではなく、能動的に、自分の人生を切り開いていけます。自分が「こうなりたい」と思う方向に、周りの人間が引き立ててくれ、サポートも集まってきます。(有川真由美2011『仕事ができ、愛される人の話し方』)

また (10) のように「営業成績を上げる話し方」など、仕事での成功を目的とする実用書も見られる。

(10) 私は、「伝わる話し方」を模索してきました。数年かかりましたが、さまざまな心理学を学び、いろんな研修も受け、やっとなつかんだのが、本書の「伝わる話し方の新ルール」です。この方法を実践したおかげで、美容業界で営業の仕事をしていたときは、2000人中新規開拓数NO. 1を5年連続で獲得することができました。(中略) 私が「伝わる話し方」ができるようになるまでかなりの遠回りをしましたが、あなたは遠回りしないで！(市川浩子2009『働く女の伝わる話し方の新ルール』)

このような、「仕事ができる女性」のイメージの提示は2000年以降の実用書においてのみ見られた。しかし、「仕事ができる女性」というイメージは、それ自体が単独で使われているわけでない。先ほどの(9)は「仕事できて、愛される話し方」であり、「愛される」という語と共に用いられている。次の(11)でもまた、「仕事美女」という語が用いられている。

(11) この本では、美しい話し方の基礎トレーニングや、話し方に準ずる立ち居振る舞いのトレーニングのほか、ビジネスシーンで役立つ、商談や会議、プレゼンの《強い話し方》、社内外コミュニケーションや打ち合わせの《優しい話し方》、敬語や電話の話し方といった、仕事美女と呼ばれるために身に付けておくべき《美しい話し方》をご紹介します。(野村絵理奈2011『仕事美女になる話し方』)

(11)では、「仕事ができる美女になるための美しい話し方」について述べているが、ここでもまた「仕事ができる」だけでなく、「美女」が付加されている。女性の話し方を論ずる際には、「仕事ができる」という評価だけでなく、「美しさ」や「愛される」ことも兼ね備えた女性があるべき姿として示されて

いるのである。(12)でも、話し方を身につけることで、「より多くの人から愛され、支持されて、仕事でもプライベートでも成功をつかむことができる」と述べられている。

- (12) ワンランク上のスマートな話し方を身につければ、より多くの人から愛され、支持されて、仕事でもプライベートでも成功をつかむことができるでしょう。本書が、あなたの魅力をよりアピールして頂くための一助となれば幸いです。(古谷治子監修2006『誰からも好かれるスマートな話し方 イラストでわかる女性のためのマナー講座』)

このように2000年以降の資料では、「仕事ができる女性」と同時に「愛される女性」や「美しい女性」が目指すべき姿として提示されている。「愛される女性」には3.1でも論じたように「職場で愛される」「男性に愛される」といったイメージが存在した。つまり、女性向け実用書では「愛される」ことが素晴らしいものとして提示され続けているといえる。2000年代ではそこに「仕事ができる女性」というイメージが加わったといえるだろう。

このような「女性は好意を向けられることが望ましい」という受動的な位置づけには変わりがないが、一方で「誰から好意を向けられるか」という部分には変化が見られる。1990年代までの実用書では、男性から好意を向けられることが述べられていた。しかし、2000年以降の資料では、「男性から」という部分が見られなくなる。前述の(9)、(12)のように、「周りの人間」や「多くの人」と示されるもののほか、(13)のように、後輩や友人から憧れられる女性の姿を提示するものもある。

- (13) できれば、後輩の女性たちから憧れられるような、友人たちからも一目置かれるような、そう、「かつこいい大人の女」に…。では、「かつこいい大人の女」とは、どんな女性なのでしょう？(中略)あなたを「かつこいい大人の女」たらしめる最重要ファクターが、ここには欠けています。どんなに仕事できてオシャレでも、これがなかったら

憧れの存在にはなれない。そのもつとも大切な要素とは、「話し方」
なのです。(渡辺由佳2006『28歳になったら読みたい かつこいい大
人の女になる！話し方レッスン』)

また、この例では「仕事ができる女性」を憧れとして描く一方で、さらに後輩や友人に憧れられるためには、「話し方」が伴わなくてはならないことが説かれている。

3.4 1990年代までの職場における女性のイメージ

ここでは、「仕事ができる」を話す力を身につけるメリットとして示していない年代の実用書の記述を見てみる。3.3では「話す力」の習得メリットとして「仕事ができる」を示すのは2000年以降で、それ以前には見られないことを述べた。1990年代までの実用書では、仕事ができることよりも感じがよい人であるべきという女性像が示される。1893年の実用書(14)では、女性はビジネス場面で“女性らしさ”を見せることが必要であると述べている。

- (14) 会社は女子社員だからといって、仕事にはあまくありません。男子社員と同じように、仕事を正確に迅速にしとげることを求めています。しかも、仕事のうえでの女性らしさをも期待しています。あなたは、その期待に応えられるよう努力しなければなりません。職場で女性らしさを発揮するというのは、どういうことでしょうか。もちろん、ことばづかいは丁寧でなければなりません。お化粧も服装も、少しはひかえめの方がいいでしょう。しかし、会社は仕事をするところなので、仕事のうえで女性らしさを見せてほしいものです。(中略) あなたは《筆者補足：資料の》コピーが、ばらばらにならないように、一部ずつペーパークリップでとめる作業です。仕事をきれいに完成させるのも、女性らしさでしょう。(中略) 《筆者補足：コピーを課長に届けるときに》一礼して「おそくなりました」ということばを添えるのも、女性らしい、おくゆかしさです。(小滝光郎1983『ことばづかいの研究 女性を生かす言い方・話し方』)

ここでいう女性らしさとは、仕事の場での気遣いや心配り、言葉遣いの丁寧さのことであり、書類のコピーをクリップでまとめて上司に渡すことや、一礼して「おそくなりました」という言葉を添えることである。このように、「仕事ができる女性」が提示されない年代の実用書では、協調性やふるまいや心配り、言葉遣いでの優しさをもつ人であることが求められている。

また、「会社は女子社員だからといって、仕事にはあまくありません」（破線部）と、仕事の厳しさを説く記述も見られ、「仕事ができる」という姿とは対照的ともいえる女性イメージが読み取れる。

4. ビジネス場面の女性イメージの変化

ここまで、女性向け実用書における話す力の習得メリットと女性のイメージについて見てきた。「1）女性は話す力を身につけることで男性から結婚相手に選ばれる」、「2）女性は身につけた話す力を家庭でも活かすことができる」、「3）女性は話す力を身につけることで仕事ができるようになる」という3つのメリットの各年代における傾向を示したのが表1である。

表1

	1970年代	1980年代	1990年代	2000年以降
1) 女性は話す力を身につけることで男性から結婚相手に選ばれる	↓	↓	↓	
2) 女性は身につけた話す力を家庭でも活かすことができる	↓	↓		
3) 女性は話す力を身につけることで仕事ができる				↓

1970年代から1990年代までの実用書では、ビジネス場面で話す力を身につけることは、女性が職場の人に受け入れられることと、男性から選ばれ、幸せな結婚をする手段となりえることが示されていた。女性に対しては、仕事のプロフェッショナルであることを求めるのではなく、女性らしい立居振る舞いや話し方をすべきことが求められていた。

これらの年代の実用書では、女性が言葉遣いを身につけることのメリット

や動機づけとして、男性から選ばれるというメリットが有用であるとみなされていたと考えられる。また、1970年代、1980年代の実用書では、話す力は日常生活、家庭においても役立つというメリットが示され、女性の生活の中心は家庭であるといった価値づけも見られた。

この「1) 女性は話す力を身につけることで男性から結婚相手に選ばれる」、「2) 女性は身につけた話す力を家庭でも活かすことができる」というメリットは、1990年代、2000年以降では揺らぎ始める。「1) 女性は話す力を身につけることで男性から結婚相手に選ばれる」は、1990年代ではメリットとして提示されているものの、「2) 女性は身につけた話す力を家庭でも活かすことができる」は見られなくなる。

2000年以降の資料では、「3) 女性は話す力を身につけることで仕事ができる」というメリットが挙げられていた。ビジネス場面の実用書において、女性が仕事で成功するイメージが前面に出てくるようになったのである。しかし、単に「仕事ができる」女性像が提示されるのではなく、「美しさ」や「愛されること」もまた働く女性にとって望ましいものとして提示されていた。

今回の分析では、女性は「〇〇な女性になりたいければ××と言うべきである」という表現の「〇〇な女性」の部分に注目して分析したが、今後は「××と言うべきである」の部分の分析も進めたい。具体的な言語形式や言及項目と、女性イメージや話す力の習得メリットとの関係を見ていく必要があるだろう。たとえば、女性イメージが変わることで、提示される言語規範も変わるのかという点も明らかにしたい。また、ビジネス場面での女性イメージとその年代の実際の女性のライフスタイルとの関連についても見ていきたい。

注

- (1) 国立国会図書館のNDL-OPACでは「話し方」でキーワード検索を行った。各年代のヒット件数は、1970年代で171件、1980年代で268件、1990年代で412件、2011年代934件であった。これらの資料には、女性向け以外の実用書も含まれている。
- (2) ビジネス場面を扱わないものも含めた女性向け実用書数は、1970年代11冊、1980年代13冊、1990年代8冊、2000年以降19冊の51冊である。

(3) 2000年以降には、2000年から2011までの実用書が含まれている。2010年、2011年は2010年代とすることも考えられるが、年代とするには年数が少ないことと、2000年代と傾向に大きな違いが見られなかったため、2000年以降とした。

(4) 調査資料一覧

書名	編著者名	出版年
愛される話し方：若い女性のために	安久一郎	1970
愛される話し方・聞き方	主婦の友社編	1972
言葉のおしゃれ あなたの魅力を引き出すために	楠本憲吉	1974
聞き上手 話し上手一人に好かれる秘訣	下重暁子	1975
素敵な女への50章 話し方ひとつであなたは変わる	原加賀子	1979
女性のためのさわやか会話術入門 話し上手になるために	室町澄子	1980
今日からあなたも女子社員	近田登志子編著	1981
魅力的女性は話し上手	永崎一則	1981
ことばづかいの研究 女性を生かす言い方・話し方	小滝光郎	1983
しっかりOLの気配り会話 私センスアップします	堀場宏子	1985
なるほど女子社員の話し方事典	OL話し方研究会	1985
女性のための魅力的話し方	吉友嘉久子	1988
OLタブー集 「気がきく」「感じがいい」といわれるために	全日空営業本部教育訓練部	1991
好感をもたれるOLきれいな言葉づかい	磯浦康二	1992
女性のキャリアは言葉しだい	江上節子	1992
知的な女性は話し上手 あなたが変わる10の秘訣	杉本泰夫	1993
言葉ひとつで女があがる	小俣雅子	1995
言葉のおしゃれ 365日	田丸美寿々	1996
美しい会話コツのコツ：好かれる人はまず話し方が違う	女性の生活マナー研究会編著	2001
会話が苦手なあなたへ コンプレックスを解消する50のレッスン	見城美枝子	2004
女性の美しい話し方と会話術	下平久美子	2004
話し方のマナーとコツ	杉山美奈子監修	2005
誰からも好かれるスマートな話し方：イラストでわかる女性のためのマナー講座	古谷治子監修	2006
一週間が変わるいい女の「言葉塾」	松原惇子	2006
28歳になったら読みたい かっこいい大人の女になる！話し方レッスン	渡辺由佳	2006
たった3分で美人になる話し方	大嶋利佳	2006
仕事ができて、なぜか愛される人の「話し方の法則」あなたに「幸運」を引き寄せよう！	PHPカラット	2007
女性は「話し方」で9割決まる	福田健	2008
働く女の伝わる話し方の新ルール	市川浩子	2009
好感度がアップするマナー美人の聞き方・話し方	マナー美人倶楽部編	2009
仕事美女になる話し方	野村絵理奈	2011
仕事ができて、愛される人の話し方	有川真由美	2011

参考文献

- 岡本成子(2010)「『言葉美人になる法』: 女性の話し方を教える実用書の分析」『日本語とジェンダー』10 日本語ジェンダー学会
http://www.gender.jp/journal/no10/01_okamoto.html (2014. 11. 26)
- 佐竹久仁子(2003)「テレビアニメの流布する『女ことば/男ことば』規範」『ことば』24 pp. 43-59 現代日本語研究会
- 佐竹久仁子(2010)「〈女ことば〉と品格イデオロギー」『ことば』31 pp. 35-50 現代日本語研究会
- 鈴木睦(2007)「言葉の男女差と日本語教育」『日本語教育』134 pp. 48-57 日本語教育学会
- 中村桃子(2007)『「女ことば」はつくられる』ひつじ書房

(ますだ しょうこ・大阪音楽大学)